

さあ、まちづくりを考えよう！



左上：手作り風車設置（中名田）、左下：茶摘み（遠敷）、右上：敬老会（小浜）、右中：竹工作（内外海）、右下：田んぼアート田植え（今富）

地域課題の解決や地域資源を生かしたまちづくりに取り組む「地域協働型まちづくり事業」に、今年度から小浜・内外海・遠敷・今富・中名の5地区のまちづくり協議会が、モデルとして取り組んでいます。より多くの住民がまちづくり協議会に参画することで、これまで以上に住民の意思が反映された、自主的なまちづくりが進むものと期待できます。

モデル事業が始まって半年、各地区の現状や課題を共有することで、これからのまちづくりに生かしていくために、まちづくり協議会の代表者5人による座談会を開催しました。

■問い合わせ
市民協働課 ☎内線372

現状を変えるために

坂下 私は、もともと「田村のまちづくり委員会」の代表をしていて、協議会立ち上げの際に地区のみんなに働きかけを行った関係から、引き続き代表をお受けしました。会合などでも区長会長の次席になり、責任

リーダーの育成が課題

川代 内外海地区では、次世代のリーダーの育成が課題になっています。私たち役員も、研修などを通じてまちづくりの進め方を学んでいるところです。

坂下 中名田地区では、協議会の役員を若手が占めています。年配の方でもやってくれる方はいるのですが、次のリーダーを育てなければなりません。そのために、代表が推薦する理事に若手を抜てきし、リーダーの育成に取り組んでいます。



特集一 さあ、まちづくりを考えよう！

赤坂 遠敷地区では、市から協議会立ち上げについて提案があった際、団体懇親会の場で話し合いをしました。そこで、「この集まりを協議会として発展させていこう」という意見が出て、協議会を立ち上げることになりました。

川代 内外海地区では、各団体がそれぞれ個別に活動していましたが、マンネリ化で予算消化型になっていった面がありました。昨年、市から、協議会を立ち上げてモデル事業に取り組んでほしいというお話をいただき、現状を変えるためにやってみようということになりました。

一圓 苦労した点では、私は小浜市生まれではないので、幼い頃から知っている間柄の方がおらず、人のつながりで困ることはありません。

木下 初めは、単なる団体長の集まりになるのではないかと心配していましたが、しかし、趣旨を説明して役員をお願いすると、断る方は一人もおらず、みんな快く受けてくれました。いくつかの団体が合同で何かをすることに、おもしろさを感じていたのだと思います。

木下 小浜地区では、各種団体長で協議会が組織されていますので、1年単位で多くの会員が代わっていきます。その中で継続性が持てるよう、中名田さんのように、次のリーダーを育てられるような体制は参考になります。

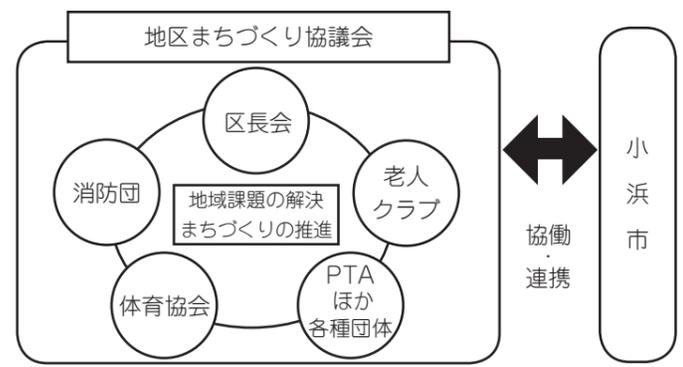
一圓 今富地区は、地区外から新しい人がたくさん入ってきているため、昔からの住民との融合が課題です。若い人が加入する組織が無いので、人材を把握しにくい面があります。規模の小さい地区と大きい地区では、まちづくりのやり方を変えないといけないのかもしれない。

赤坂 遠敷地区でも、新興住宅地ができたときに、新しく来られた人たちに声をかけるべきか迷っていました。しかし、いざ声をかけてみると、地区の団体に入っすぐに溶け込んでくれたという声を聞きました。初めのうちに参加を呼びかけていくことが大切だと思います。

川代 内外海地区は、4人の副会長のうち2人を、若い女性が担っています。積極的に動いてくれるので大変心強いです。

「まちづくり協議会」ってどのような組織？

※イメージ図



「まちづくり協議会」とは、より多くの地域住民が参画し、自ら地域の課題について考え、地域資源を生かした地域づくりに取り組む、地域・住民主体のまちづくりを進める組織です。

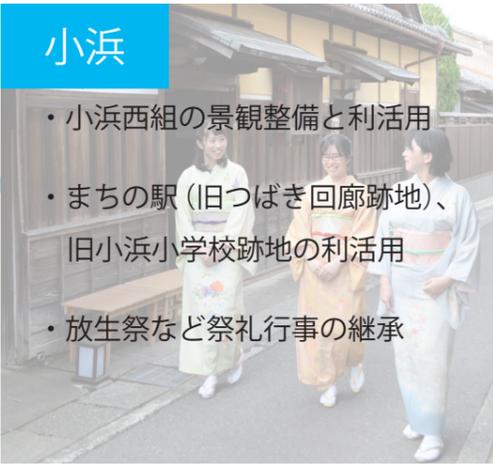
祭り、行事の継続、復活や、地域内環境の保全、生きがいづくりなど、住民にとって真に住みよいまちづくりを進めるために取り組んでいます。



田村のゆめづくり協議会 代表 坂下 憲治さん (54歳・上田)
今富まちづくり協議会 会長 一圓 敏彦さん (77歳・多田)
遠敷地区コミュニティ協議会 会長 赤坂 登紀雄さん (64歳・国分)
内外海地区まちづくり協議会 会長 川代 雅和さん (57歳・西小川)
小浜地区まちづくり協議会 代表 木下 弘昭さん (55歳・駅前町)

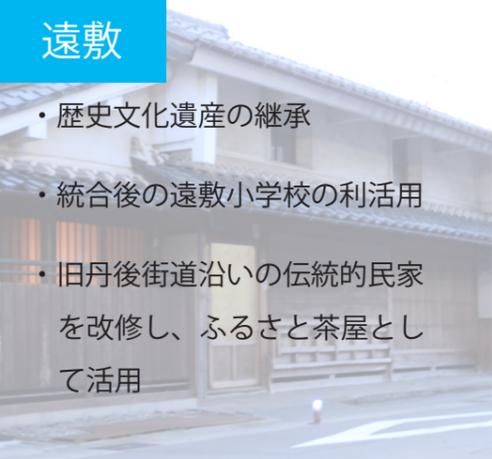
小浜

- ・小浜西組の景観整備と利活用
- ・まちの駅(旧つばき回廊跡地)、旧小浜小学校跡地の利活用
- ・放生祭など祭礼行事の継承



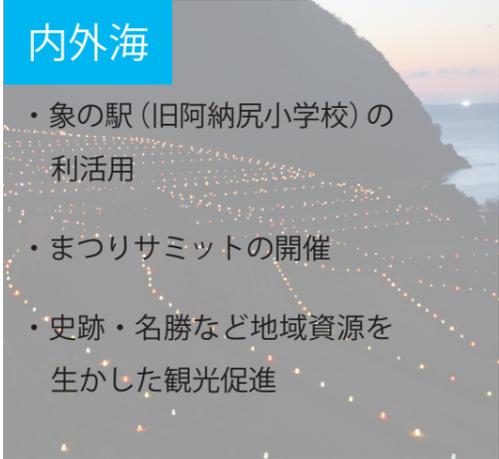
遠敷

- ・歴史文化遺産の継承
- ・統合後の遠敷小学校の利活用
- ・旧丹後街道沿いの伝統的民家を改修し、ふるさと茶屋として活用



内外海

- ・象の駅(旧阿納尻小学校)の利活用
- ・まつりサミットの開催
- ・史跡・名勝など地域資源を生かした観光促進

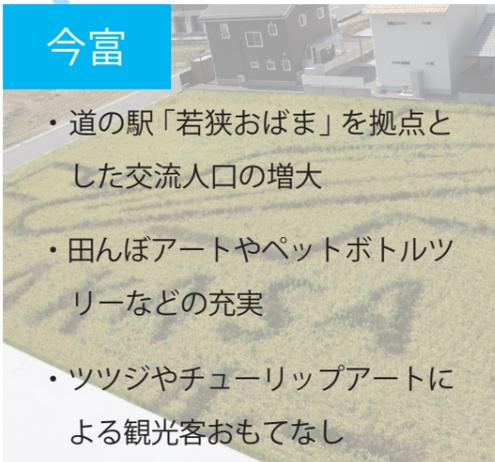


**5地区が目指す
将来像**

※主なものを掲載しています

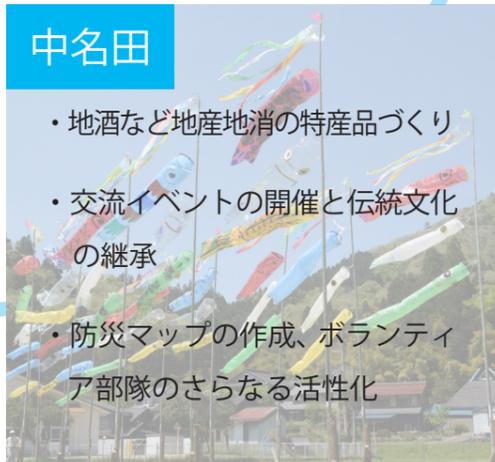
今富

- ・道の駅「若狭おばま」を拠点とした交流人口の増大
- ・田んぼアートやペットボトルツリーなどの充実
- ・ツツジやチューリップアートによる観光客おもてなし



中名田

- ・地酒など地産地消の特産品づくり
- ・交流イベントの開催と伝統文化の継承
- ・防災マップの作成、ボランティア部隊のさらなる活性化



赤坂 遠敷地区は、協議会役員のひとつが男性なので、今後女性役員を増やして、女性の意見を取り入れていくことで、さらにすばらしいまちづくりができると思います。

木下 公民館の館長の存在も大きいですね。館長さんが積極的に動いてくれると、協議会の運営もまちづくりもうまくいくと思います。

坂下 中名田地区の館長さんは、綿密な連絡や事業の準備をしてくれるので、とても助かっています。

大事なのは、自分たちも楽しむこと

木下 老若男女みんなが一緒に活動できる協議会にしていきたいですね。いろいろな人が集まっているので、可能性はあると思います。

坂下 今は心地よく活動させてもらっています。あとは、参加者を広げていきたいですね。最近では、自分から参加したいという方が増えてきたので、「中名田にこの会あり」という大きな団体にしたいです。

一圓 どうやって参加者を増やすか、いかに無関心の人を呼び込むか、と



というのが課題ですね。

赤坂 子どもが楽しめるイベントは大切ですね。8月に開催した「天の川夏まつり」でも、子どもが参加できる楽しい催しを企画したので、にぎやかで祭りらしい雰囲気になりました。

川代 子どもが一つのキーポイントになりそうですね。ふるさとまつりなどでも、子どもが主体となる時間帯は人が集まりますが、それが終わると少なくなります。今年はそれを変えようと、地区の伝統行事を一同

に会する、子どもも大人も巻き込んだイベントを企画しています。

坂下 やはり、自分たちも楽しめるイベントをしなければ人は集まりません。中名田では、老人クラブや小学校などを巻き込んだ活動を行っていて、すごくおもしろく、楽しい地区になっていきます。都会から若い人にも帰ってきてもらうためには、「中名田は楽しいぞ」、「中名田はおもしろいぞ」と伝えることが大事だと思います。現在、小学校にボランティアチームを作っていますが、その子たちには、中名田は楽しいと思ってもらえるようになってきています。

赤坂 遠敷地区では、今のところ行事を一つ一つこなすのに精いっぱいですが、今後は、みんなで企画するところから楽しめるようにするのが目標です。

全員 各地区の目標に向けて、自分たちのまちを良くしようという思いは皆同じです。今後は、5地区で情報交換・連携しながら、まちづくりを進めていきましょう。

(9月5日⑤ 中央公民館)



市民協働課
地村 知代 課長

すべての地区で
まちづくり協議会の設立を

皆さんのお話を伺って、メンバーの固定化や若者が少ないこと、後継者不足など、同じ問題で悩んでおられることがわかりました。行事に参加している自分たちが、まずは楽しむことによって「事業が継続できる」、「興味がある人が増えていく」という言葉がとても印象的でした。

今回のモデル地区以外の地区についても、「まちづくり協議会」を設立し、自分たちの地区の課題は何か、みんなで話し合い、「自分たちの地区を良くしよう」と地域がスクラムを組み、地域・住民主体のまちづくりを進めていたいただきたいと思っています。